

那須烏山

— No.96 —

2013
September

9

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

第36回いかんべ祭…………… 2
ほっこり中山かぼちゃ 55クラブ設立… 6
広島平和記念式典へ中学生15人初派遣… 7
第5回子ども議会…………… 8
お祭で市内にぎわう……………11
情報公開及び個人情報保護制度…………12
市職員給与のあらまし……………13
まちの話題……………14
インフォメーション……………16
森田の獅子舞・下境ささら獅子舞… 18

市イメージキャラクター



やまどん ここなす姫 からすまる



第36回いかんべ祭本祭より(8月24日)

いかんべ祭

天空の光
伝統の響き
創造の力

「天空の光・伝統の響き・創造の力」をテーマに、市民ボランティアによる「第36回いかんべ祭」が、保健福祉センター駐車場を主会場に開かれ、約1万8千人が来場し、夏の祭典を楽しみました。

今年は、8月23(金)、24(土)の2日間の予定でしたが、23日(金)の前夜祭は、あいにくの雨で中止。翌日の本祭は、天候にも恵まれ、華やかなステージやパレード、そして盛大な花火で会場は大変な盛り上がりを見せました。

大雨で苦渋の選択： 前夜祭は中止

23日の前夜祭当日、いかんべ祭実行委員会(山本芳江実行委員長)では、午前中から最終準備を進めていましたが、正午に近づくにつれ雲行きが怪しくなり、午後には激しい雨が降り出しました。天気予報を見ても止む気配のない雨に、午後3時、「前夜祭を中止する」という決断を下しました。

このため、前夜祭に出演を予定していた34団体による37公演も見送られることになりました。特に、全国で活躍するシンセイザイ奏者で、「いかんべ八木舞士」の作曲も手がけた倉沢大樹さんのミニライブが、昨年に続いて中止になり、楽しみにしていたファンは残念な様子でした。

一段と盛り上がった 本祭

翌日は、午後2時の「いかんべパレード」で本祭がスタート。中学校吹奏楽部を先頭に、実行委員や市長、観光協会長などが仮装した「いかんべ七福神」、子どもみこし、おはやしなど、13団体が、クリーンボーイ&ガールのプラカードの先導に続いて、つくし幼稚園から保健福祉センターの会場までを練り歩きました。今年は、コースが短縮されたものの、沿道にはたくさんのお客様が集まり、参加団体に声援を送りました。

広さ1000畳、県下一を誇る野外ステージでは、キャラクターショーのほか、市内外の27団体が

歌や踊りなど32の公演を繰り広げ、観衆を沸かせました。

「いかんべ広場」では、恒例の企業出店や特産物店、各種露店などが立ち並びました。最近、マスコミで取り上げられ、県内でしか出店していない「レインボーアイス」の露店も大人気で、長蛇の列ができていました。

午後9時20分には、祭のフィナーレとなる花火大会。市内内外の企業提供のほか、結婚や誕生など人生の節目を記念した個人の記念花火など1千発が、盛大に夜空を彩り、今年も真夏の祭典が締めくくられました。



左から、浴衣姿がお似合いの4人組。/いかんべ七福神の皆さん。



①会場に降り注ぐ雨(前夜祭)。②並んだ椅子にも水滴が目立つ。③前夜祭中止で対応に追われる実行委員。④チャリンコ戦隊姫レンジャーの歌とダンス。⑤いかんべ広場で獣電戦隊キョウリュウジャーと握手。⑥烏山小プラスバンド部。⑦射的ゲームに真剣。⑧荒川小の5,6年生合唱を披露。⑨柳扇会の日本舞踊。⑩フラレア(大金A・B・烏山A・B・宇都宮東)のフラダンス。⑪BEAT CRASHの「いかんべ八木舞士」。





① BREXY. ② 高根沢フラメンコサークル. ③ Rough Diamond little kids. ④ くれよんダンスサークル. ⑤ 江川小プラスバンド部. ⑥ 烏山中吹奏楽部. ⑦ LOW-KEYS miyako. ⑧ 矢崎部品研修生によるインドネシア民俗舞踊. ⑨ BEAT CRASH(大金・宇都宮ジュニア). ⑩ フラレア(大金A・烏山B・宇都宮). ⑪ クリーンボーイ&ガール39人で会場の清掃. ⑫ 那須烏山民舞会. ⑬ Lovely☆Candy(さくら市ご当地アイドル). ⑭ 千珠会(詩舞). ⑮ Eva Hula. ⑯ BEAT CRASH(大金上級・宇都宮). ⑰ 坂東会. ⑱ はちまんたろう. ⑲ オカリナ・サークル あんだんて. ⑳ BEAT CRASH(宇都宮). ㉑ The Market's. ㉒ Jelly Beans. ㉓ いかんべ八木舞士(アート&スポーツ専門学校, BEAT CRASHオールメンバー). ㉔ 荒川中・下江川中吹奏楽部. ㉕ 紗喜千代会. ㉖ 千草会. ㉗ Rough diamond.





ボランティアで支える「いかんべ祭」

市民による市民が楽しめる新しい祭としてスタートした「いかんべ祭」。とちぎのまつり100選のひとつにも選ばれ、真夏の祭典としてすっかりおなじみとなりました。東日本大震災で被災した一昨年は中止したものの、今年で36回目を数えます。その屋台骨を支える実行委員会は、4月にスタートしてから、約100人の市民ボランティアが4ヶ月にわたって準備にかかわってきました。そして、祭が終わると翌日からさっそく後片付け…。まさにボランティアによる「手作りの祭」です。

しかし、最近ではボランティアの数が減少し、一人ひとりの負担が増すなど、回を重ねるごとに運営が難しくなっています。子どもからお年寄りまで、出演者から観客やスタッフまで、みんなが楽しめる夏祭は、他にはない大きな特徴です。こんな自慢できる祭を、これからも続けるためには、どうしたらいいか。ボランティアをどう確保し、行政のかかわりはどうあるべきか。初めて取材という立場で祭に接して、考えさせられました。



生産拡大とブランド化目指し

ほっこり中山かぼちゃ55クラブ設立

市と県、那須南農業協同組合、同中山かぼちゃ部会、そしてイオンリテール(株)では、市特産の「中山かぼちゃ」の生産、流通、販売を連携して推進するために「ほっこり中山かぼちゃ55クラブ」を設立しました。

同クラブは、中山かぼちゃの生産を拡大すると共にブランド化を図るため、生産者と行政、流通業界が協力して対応しようとして設立したものです。クラブ名の「ほっこり」は、中山かぼちゃのホクホクした食感と、美味しさにつこりして欲しいという思い、「55」は、開花から収穫までの日数から命名。今後、生産技術と品質の向上、ブランド化の推進、地域の食文



設立総会で趣意書を締結した会員。左から、大森正一那須南農業協同組合中山かぼちゃ部会長、山田清那須南農業協同組合代表理事組合長、大谷範雄市長、高橋啓一県農政部参事兼塩谷南那須農業振興事務所長、岡澤正章イオンリテール(株)エリア政策推進本部長。

化継承活動、中山かぼちゃの情報発信等の活動を展開することになっています。特に、販売に関しては、全国でスーパー

を展開するイオンリテール(株)の「フードアルチザン(食の匠活動)」を活用し、全国展開する店舗網やインターネット等幅広い販売チャンネルを通して販路の拡大を図ることにしています。

イオンのフードアルチザン活動は、生産者等とのパートナーシップの下に、地域の伝統的食材を保護、継承する取り組みで、鹿児島県の桜島大根や茨城県笠間の栗など全国16府県24品目で協議会を設立し、特産品販売を手がけています。栃木県とは、昨年10月に地域活性化包括連

携協定を締結していますが、同活動としては、県内初の取り組みです。

7月31日(水)から8月11日(月)にかけては、栃木・群馬のイオン7店舗で販売しており、インターネットでの販売も始まりま

す。7月31日(水)には、那須南農業協同組合本店で同クラブの設立総会が開かれ、大

谷市長が、「地域特産品に誇りを持つよう、地域活性化に励んでいきたい」とあいさつ。続く趣意書締結式では、中山かぼちゃ部会の大森正一部会長が、「これから本クラブはもちろん地域の人と手を取りながら、中山かぼちゃを全国発信していきたい」と話していました。

中山かぼちゃ

戦後、北海道から旧烏山町中山地区に導入されたかぼちゃに由来し、50年以上前から農家の自家消費用として栽培されてきた。果実は、両端のとがった紡錘(ぼうすい)型で、肉質は粉質でホクホクとした食感が特徴。栽培が難しく、出荷期間も1ヶ月半と短い。小売価格が一般のかぼちゃより3割ほど高く、ブランド志向が強い。今年1月には、地域団体商標の登録を果たした。

20年ほど前のピーク時には、約90戸の農家で栽培され、約90トンの出荷量があったが、現在は、栽培農家15戸、出荷量は約15トンと急激に減少している。

紡錘型の中山かぼちゃ。



ABC/R運動の講演会を開催

実践的な立腰教育を学ぶ

市教育委員会では、ABC/R運動の基盤となるR(立腰)教育を立腰(腰骨を立てる)ことを広めようと、8月26日(月)、烏山公民館で「ABC/R運動講演会―立腰教育にかける夢」を開き、同運動推進協議会委員や教職員、市職員など、約160人が参加しました。

当日は、仙台市の学校法人立華幼稚園の菊田信園長を招き、約30年間、同園で立腰教育を行ってきた経過や成果などから立腰の大切さを講演しました。

市では、今後、将来を担う子どもたちを中心に立腰教育を徹底していくことにしています。



立腰の大切さを講演する菊田園長。

中学生15人が平和の尊さを胸に刻んだ3日間 広島平和記念式典へ 初派遣



平和記念式典に参加した15人。

市は、将来を担う中学生に戦争の悲惨さと平和の尊さを認識してもらおうと、初めて派遣団として市内の3中学校15人を広島市に送り、「原爆死没者慰霊式・平和祈念式（平和記念式典）」に参列しました。

派遣は、8月5日（月）から7日（水）までの日程で、式典参加の他、平和記念公園や広島原爆資料館等を見学しました。

派遣を通して貴重な体験をしてきた中学生の感想文から一部抜粋して紹介します。（敬称略、順不同）



上から、原爆ドームを見学。／平和を願い折られた鶴が並ぶ。／広島で厳島神社見学。／マツダミュージアム見学。

■広島原爆資料館では、被爆者たちの遺品から、話を聞くだけでは分からない当時の人たちの思いが伝わってきた。この経験を無駄にしない為に、今ある平和に感謝し、たくさんの人に伝えていきたい。 下江川中3年 小島慶子

■多くの被害や被爆者が出たことは知っていたはずだったが、実際に広島を訪れると被害の深刻さを物語る建物等を見て、自分の認識の浅さを思い知った。同じ事が二度と起こってはいけないと思った。 下江川中3年 田代翔太

■広島原爆資料館では、被爆者を再現した人形等があり、見るたびにづらい気持ちになった。マツダミュージアムや厳島神社の見学を通し、他校の生徒と仲が深まり、充実した3日間になった。 下江川中3年 池田健人

■平和式典では、原爆によって家族を失った人々の話を聞き、胸が苦しくなった。「いつまでも平和な暮らし」が当たり前になるよう、これから私たちが出来ることを考えて行動していきたい。 荒川中3年 高橋美音

■原爆ドームは、予想以上に建物のコンクリートがなく、鉄骨だけになっていて驚いた。命のバトンをつなぐためにはどうすればいいか。平和について考えていかなければいけないと思った。 荒川中3年 鈴木沙羅

■今でも原爆症で亡くなっていく人々がいることを知り、戦争はとんでもないものを作り出してしまったと実感した。戦争という言葉が無くなるまで日本だけでなく国を越えて伝えていきたい。 荒川中3年 菊地駿佑

■広島原爆資料館では、ビデオや展示物を見て、あまりにも悲惨すぎて過去にあったことだとは思えなくなかった。記念式典で平和宣言などを聞いて過去から目を背けてはいけないと思った。 荒川中3年 高田直樹

■平和記念式典で、広島市長が核兵器に対して「絶対悪」と言った言葉がとても印象的で、核兵器廃絶への強い意志を感じることができた。この経験を広く伝えるため、まずは学校の生徒に知らせたい。 荒川中3年 中里友哉

■同じ人間が悲惨な思いをし、今も苦しんでいることを広島では代々語り継がれていることを知った。私たちは、戦争や平和について学び伝えていき、思いやりをもち生活しなければいけないと感じた。 烏山中3年 神谷百香

■特に印象的なのは、広島原爆資料館に展示された被爆者を再現した人形だ。痛々しいと感じながらも、その姿は、本当に原爆反対を願っているようだった。この体験を生かし、皆と話し合っていきたい。 烏山中3年 小林航大

■記念式典では、人種、国籍を問わず、たくさんの人々が参列しており、平和を願う気持ちは皆一緒なのだと感じた。この事業では貴重な体験をすることができたのでぜひ続けていきたい。 烏山中3年 荒井智明

■今でも、爆風により飛び散ったガラスの破片が体内から見つかったり、ガンの恐怖に脅かされていることを知り、とても怖くなった。事業を通し、原爆に対する考えが甘かったと痛感した。 烏山中3年 石戸宏枝

■たった一発の原子爆弾の投下で多くの命を奪い、生き延びた人さえも苦しみを与えている。「核はもういらぬ」という言葉の重みを感じ、この世に核兵器を一つたりとも残してはいけないと思った。 烏山中3年 水井一貴

■当時、原爆で火傷を負い、熱くて苦しむ人々が原爆ドーム前の川に飛び込み、真っ赤な血の川となったことを知り、とても恐ろしくなった。いつか世界中の人々が笑顔で暮らせるようになってほしい。 烏山中3年 佐藤愛実

■68年前の8月6日午前8時15分。広島で何が起きたのか自分の目で知ることが、命や平和の尊さ、家族の大切さを改めて感じた。自分にできることを一つずつやっていきたいと思う。 烏山中3年 須山優菜

議会に子ども議員として議場に上がり一般質問をした12名の小中学生。



12人の小中学生が議会を体験

第5回 子ども議会

市は、未来を担う小中学生に「市や議会の仕組み」や「市の施策」などに実際に触れさせ、まちづくりに関心を持つてもらおうと、8月1日(木)市議会議場で「第5回子ども議会」を開きました。

当日は、各校代表の小中学生7人、中学生5人が議員として出席。大谷雄市長を始め、課長等の市執行部の前で、子どもの視点から一般質問をしました。傍聴席には、保護者や各校の教諭等、多くの人々が訪れ、議会の行方を見守りました。

議長は中学生3人が交代で務め、本番さながらの緊張感の中、子どもたちが質問をすると、大谷市長は一つひとつ丁寧に答えました。

荒川小の碓氷瑞希さんは、「緊張したけど、落ち着いて質問ができて良かった。これからもっと市のことを考えていきたい」と話していました。

なお、参加者と質問内容は、次のとおりです。(敬称略、順不同)

■小学生

- ① 荒井至恩(鳥山小)
 - ・ 観光と祭をさらに盛り上げるためにどんな取り組みをしているのか
- ② 大竹小雪(七合小)
 - ・ 東日本大震災被災地に私たちが協力できることはないか
- ③ 碓氷瑞希(荒川小)
 - ・ 放射能汚染による農家への支援は

今後どのように行っていくのか

④ 中山楓恋(江川小)

- ・ 市の文化財の広報活動は現在どのようにされているのか

⑤ 仲山裕真(荒川小)

- ・ 車や電車などの交通網の整備は今後されるのか

⑥ 桑久保拓人(境小)

- ・ 24時間診察を受けられるような小児科をつくってみてはどうか

⑦ 高橋彩希(鳥山小)

- ・ 市内に気軽に利用できる体育施設をつくれれば市民がスポーツに親しみ、健康づくりができるのではないか

■中学生

① 池田健人(下江川中)

- ・ 通学路で暗く危険な箇所があるか

② 小林真琴(荒川中)

- ・ 山あげ祭を旧鳥山町だけでなく旧南那須町も協力できるような企画や計画はあるのか

③ 佐藤愛実(鳥山中)

- ・ 高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指して市が取り組んでいる施策はどのようなものか

④ 大塚康平(荒川中)

- ・ ウォーキングトレイル周辺の環境整備をし、環境のまちとして市をアピールできないか

⑤ 荒井智明(鳥山中)

- ・ 通学路で危険箇所がいくつかある。点検、整備の計画はあるか



上から、堂々と質問する小学生。／大谷市長の答弁を熱心に聴く中学生。／本番さながらの議会を体験。



こども館移動出前サロン 地域に出向いて子育て支援

こども館では、7月から、保育士が地域に出向いて子育て支援をする「移動出前サロン」を、これまでの南那須地区会場から烏山地区に拡大して開催しています。

移動出前サロンは、毎週火曜と木曜の午前10時30分から午後1時まで、地域の公民館等で手遊びや親子体操、ゲームなどを通して参加者の交流促進を図るものです。家庭的な雰囲気好評で、参加者から、烏山地区での開催を望む声が上がっており、市内全域での開催となりました。

今後の開催予定は、次のとおりです。内容等詳しくは、市ホームページをご覧ください。こども館 ☎ 0287-8010281 までお問い合わせください。

◇ 今後の開催予定

- 9月
 - 火曜 三箇公民館
 - 木曜 境公民館
- 10月
 - 火曜 上川井公民館
 - 木曜 保健福祉センター
- 11月



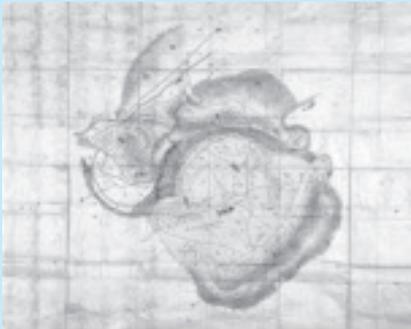
保育士と一緒にゲーム等を楽しむ（7月18日(内境公民館にて)。

- 火曜 南那須公民館
- 木曜 鴻野山公民館
- 12月
 - 火曜 熊田西公民館
 - 木曜 保健福祉センター
- 1月
 - 火曜 上川井公民館
 - 木曜 七合公民館
- 2月
 - 火曜 南那須公民館
 - 木曜 三箇公民館
- 3月
 - 火曜 保健福祉センター
 - 木曜 鴻野山公民館

シリーズ 市の文化財 第29回

市指定文化財

元禄の裁許絵図(一対) (小倉・藤田)



裁許絵図とは、土地や水の所有、権利などの争いに関して、訴訟機関の決定を絵図や文字によって示した裁判記録で、中世から江戸時代にかけて用いられました。

この絵図は、元禄12年(1699)に荒川流域の小倉村と藤田村との間で起こった水争いの記録です。縦143cm、横215cmの和紙に、表面には両村の田畑や川の流路など、裏面には評定所役人(勘定、北町、南町、寺社の各奉行)の連署(サイン)と裁許状(判決文)が書かれています。これらは、裁許の証明として小倉村と藤田村の名主に1部ずつ渡され、双方同意のもと決着が図られました。しかし、その後も洪水によって境界を巡る争いは続いたようです。

新井さん ボーイスカウト 「かっこう章」

新井政一郎さん(中央2丁目)がボーイスカウト日本連盟から、「かっこう章」を授与されました。「かっこう章」は長年、活躍し功労賞で、今年を受賞は県内で新井さんが唯一。新井さんがスカウト活動に出会ったのは約65年前。以来、現在まで県のボーイスカウト連盟の評議員や、ボーイスカウト栃木連盟那須第7団の団委員長を歴任し、子どもたちと一緒に野外活動等を行っています。

かっこう章を受けた新井さん。



くなる。それを見守りつつ、孫のうな年の子らと友達になり、私たちが教えてもらうこともある。これからも、子どもたちと一緒に学び、成長していきたい」と話していました。